

2026年3月期（FY2025）
第3四半期 決算説明資料

2026年2月13日



本資料に記載されている計画については現在当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいております。

2026年3月期（FY2025）3Q決算のサマリー

FY2025 3Q決算概要

- 2026年3月期3Q決算（累計）は、売上901億円、EBITDA 40億円、当期純利益17億円となり、**為替・資源相場の好転により想定を上回るペースで業績改善が進みました**（3Q単体では売上363億円、EBITDA39億円、当期純利益31億円）
 - 製錬では、**特に銀価格が歴史的な高水準であり**、想定以上の収益改善となりました
 - 金属リサイクルでは、当初計画通り亜鉛製錬事業の残務処理費用等の損失は低減されておりますが、加えて**再編に伴い保有していた資産売却による利益計上を行ったことで、通期で損失を打ち返しました**
 - その他、全社変革施策の効果刈り取りも順調に進み、基盤収益を下支えしています

FY2025 通期見通し の変更

- 3Qまでの進捗を踏まえ、**2026年3月期通期見通しを売上1,230億円、EBITDA61億円、当期純利益27億円に上方修正いたしました**（2025年11月13日公表の計画値は売上1,184億円、EBITDA41億円、当期純利益13億円）
- 見通しの変更においては、為替・資源相場的前提を変更しています。足元の資源相場（特に銀価格）はボラティリティが高く予想が困難なため、**銀価格の4Q（残り3か月の）前提は64ドル/オンス（2025年12月平均）としております**

FY2026以降 の見通し

- 為替・資源相場の変動を踏まえた2027年3月期の計画は精査中です
 - 当社はFY2025からの事業再生期間において全社変革に取り組んでおり、FY2025では計画から効果刈り取りまで一定のタイムラグがありました。**FY2026では各施策（例：貴金属の増産）の収益貢献が通期で見込まれます**
 - TC/RC水準低下や2次原料回収コスト増加など踏まえ、鉱石/2次原料の**最適な原料ミックスで収益改善、販売先には適切な販売プレミアム水準設定を通じて価格転嫁を行います**

その他

- 1月30日公表の通り、貴金属価格の上昇に伴う運転資金の拡大に対しては、**金融機関と追加借入枠について合意し、安定的な財務基盤を確保しています**
- 当社株式は、足元の株価水準に基づくと**東証プライム上場維持基準に適合する見込みです**

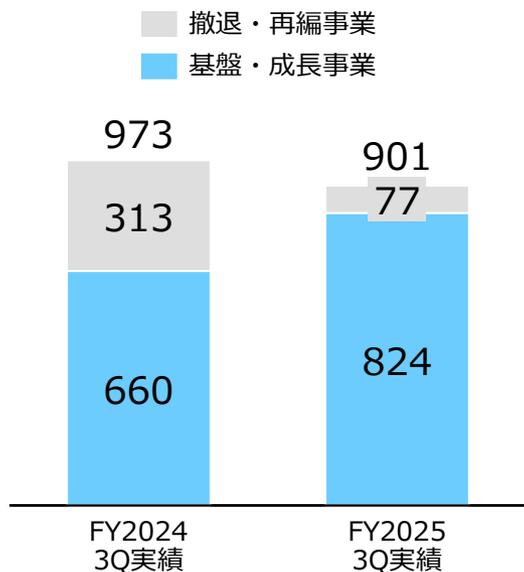
1. 2026年3月期3Q決算概要	P.3
2. 2026年3月期通期見通しの変更	P10
3. 2027年3月以降の見通し	P.15
4. その他	P.21
Appendix	

2026年3月期（FY2025）3Q決算の概要（累計前年同期比）

売上高は撤退・再編事業の影響で減少、EBITDAは売上高減少に加えて鉛・銀事業のTC/RCの影響による収益悪化で前年同期比減少、一方で、当期純利益は前年度に計上した亜鉛製錬撤退に伴う減損損失の反動等で前年同期比増益となりました

(億円)

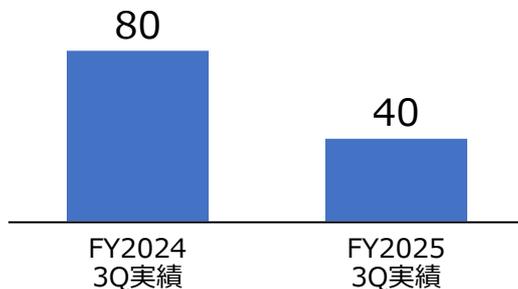
売上高



(前年同期比)

- ・ 亜鉛製錬事業、資源事業からの再編・撤退による売上減少

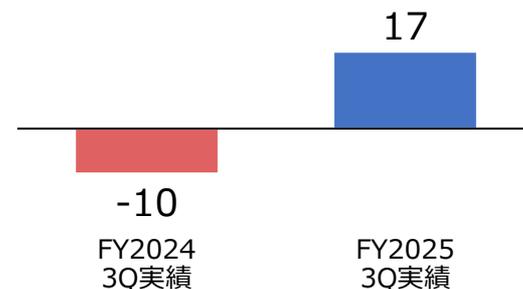
EBITDA



(前年同期比)

- ・ 鉛・銀事業における、TC/RCの条件悪化などによるマイナス
- ・ 資源事業からの撤退による前期計上の利益の剥落

当期純利益



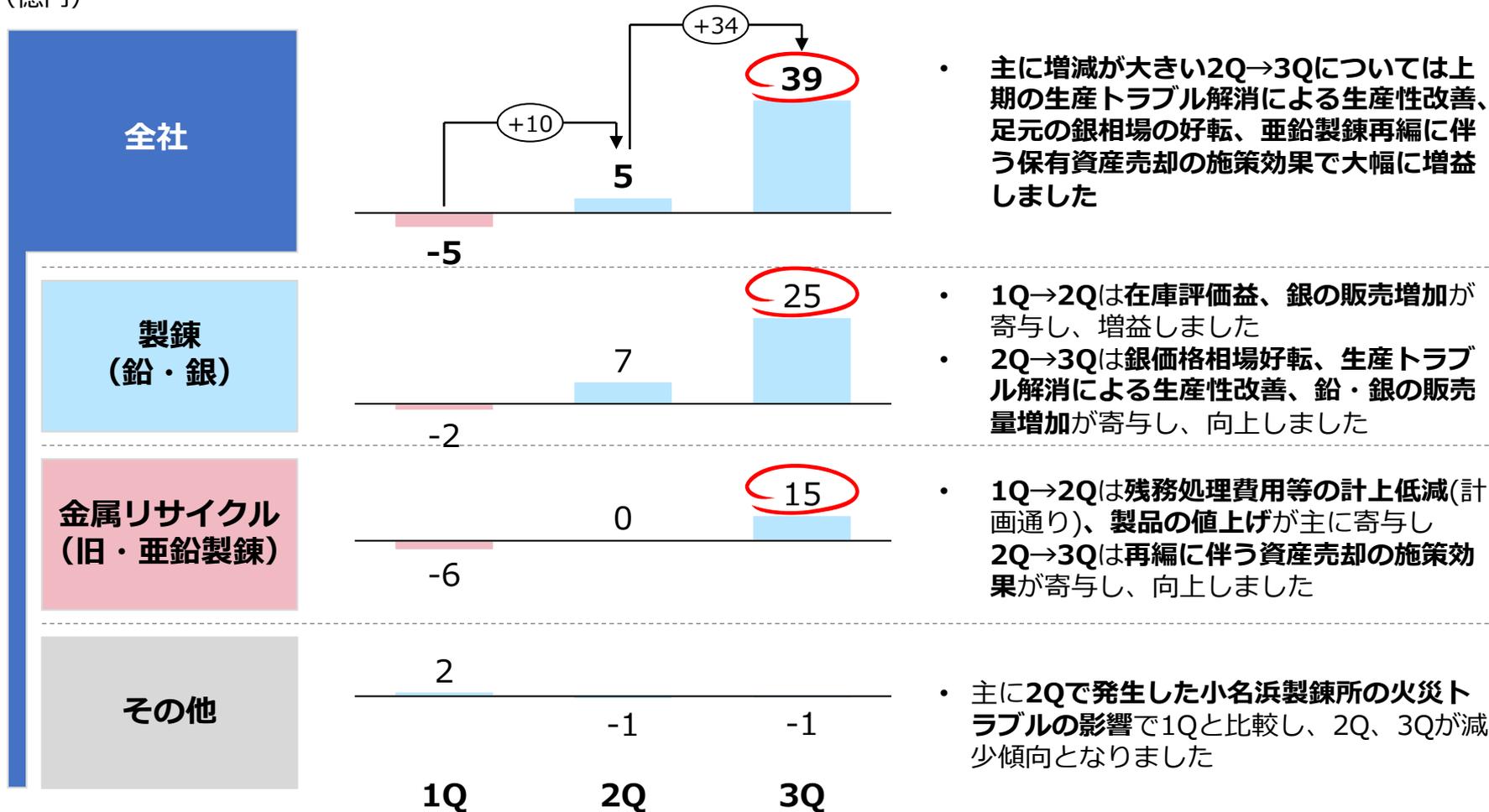
(前年同期比)

- ・ 前年度計上の亜鉛製錬事業の撤退に伴う減損損失の反動

2026年3月期（FY2025）各四半期の利益積み上げ（EBITDA）

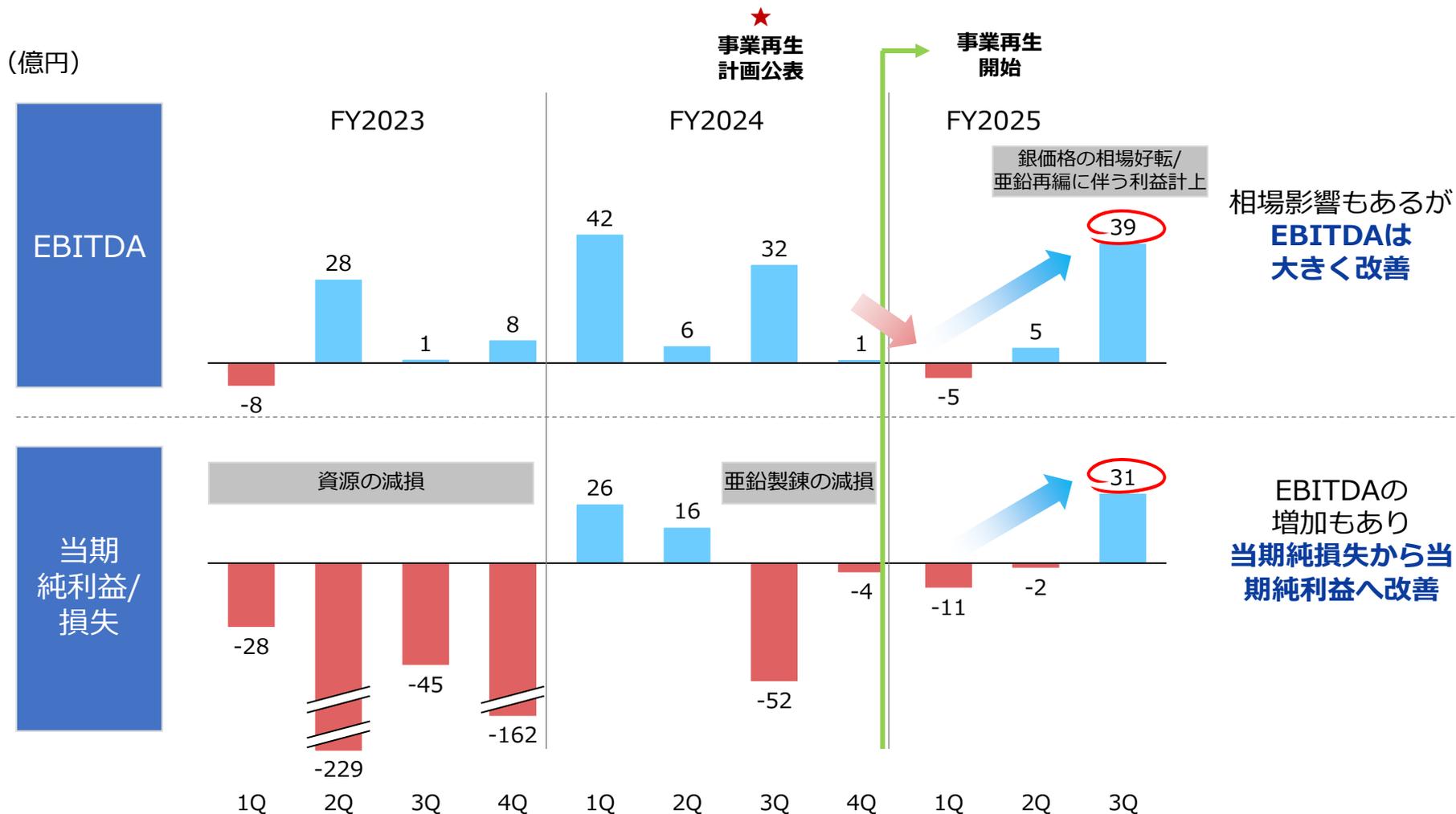
3Qでは、相場影響の好転及び亜鉛製錬再編に伴う保有資産売却の施策効果により大幅増益を達成しております

(億円)



四半期ごとの損益推移

四半期の推移でも、足元の相場好転の影響はあるものの着実に事業再生開始から利益成長を実現いたしました

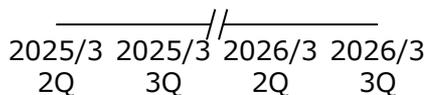
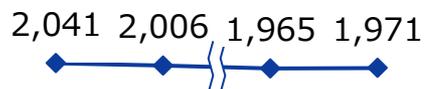


資源価格の推移（ドル建て、円建て）

鉛価格はドル建てで下落し、若干の円安傾向の中ほぼ横ばい。銀価格はドル建てで上昇し、同じく若干の円安傾向もあり円建てで上昇しています

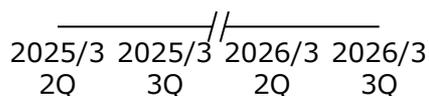
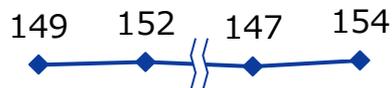
鉛LME価格推移
(ドル建て)

(ドル/トン)



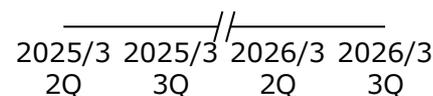
為替推移

(円/ドル)



鉛LME価格推移
(円建て)

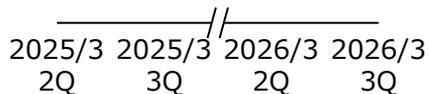
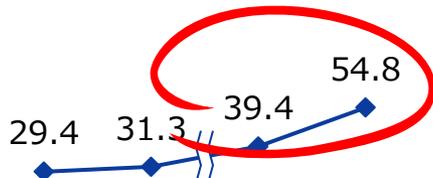
(万円/トン)



鉛

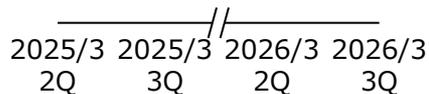
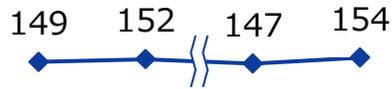
銀LBMA価格推移
(ドル建て)

(ドル/オンス)



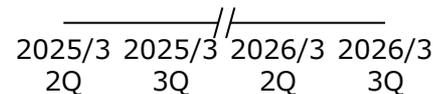
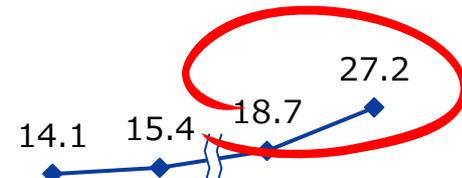
為替推移

(円/ドル)



銀LBMA価格推移
(円建て)

(万円/kg)

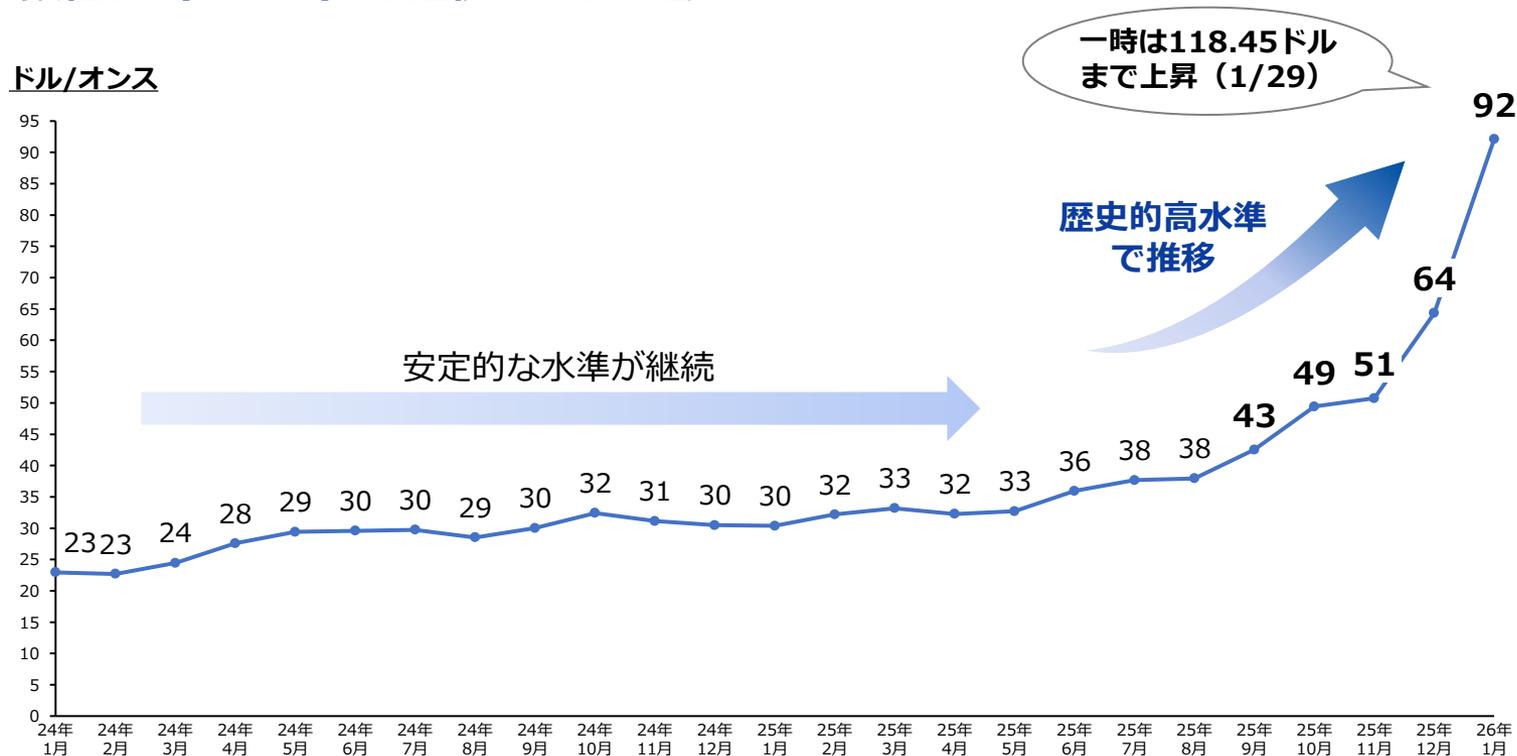


銀

(参考) 銀価格の推移

2025年9月より40ドルを超えて、1月の平均は92ドルとなり歴史的な高水準、終値の最高値は一時1オンスあたり118.45ドルまで上昇しております

銀価格 (LBMA) の推移 (1か月平均値)



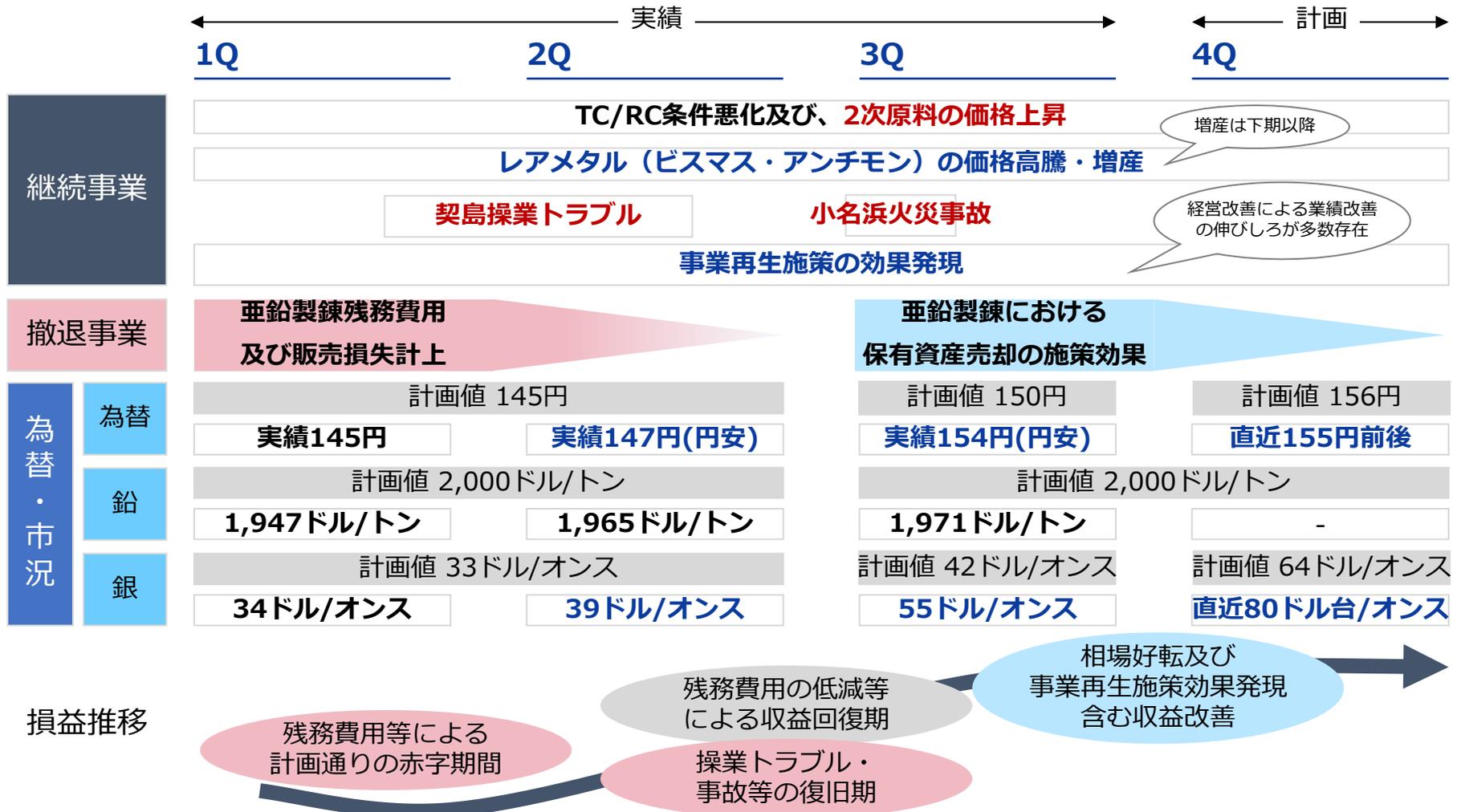
2026年3月期（FY2025）における業績推移の想定

黒字：計画比業績インライン

青字：計画比業績ポジティブ

赤字：計画比ネガティブ

TC/RC条件悪化及び2次原料の価格上昇、操業トラブル・火災事故等のマイナスの影響に対して、相場好転もあるものの事業再生計画の効果発現もあり、収益向上が実現できました



1. 2026年3月期3Q決算概要	P.3
2. 2026年3月期通期見通しの変更	P.10
3. 2027年3月以降の見通し	P.15
4. その他	P.21
Appendix	

2026年3月期（FY2025）決算の見通し

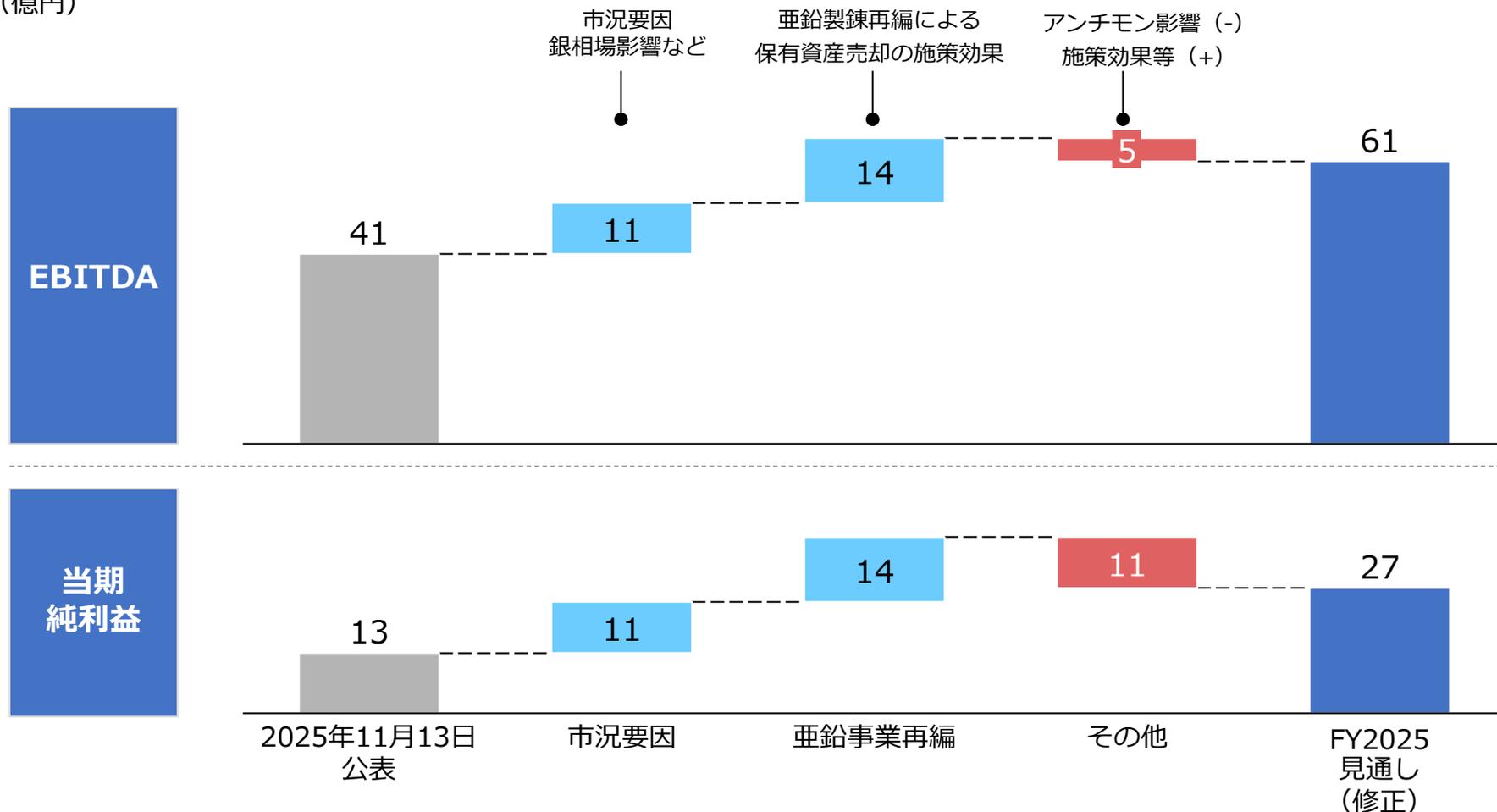
3Qまでの進捗を踏まえて、11月公表の数値に対して見通しを修正、売上/利益とも上方修正しております

(億円)	11月公表見通し	2月公表見通し	11月公表差	同公表比
売上高	1,184	1,230	+46	+3.9%
EBITDA	41	61	+20	+48.8%
経常利益	18	35	+17	+94.4%
当期純利益	13	27	+14	+107.7%

2026年3月期（FY2025）決算の見通し

主に銀相場の影響及び3Qで実現した亜鉛製錬再編に伴う保有資産売却の施策効果などにより、2026年3月期通期見通しはEBITDA61億円、当期純利益27億円に上方修正いたします

(億円)



資源価格及び為替の想定と感応度

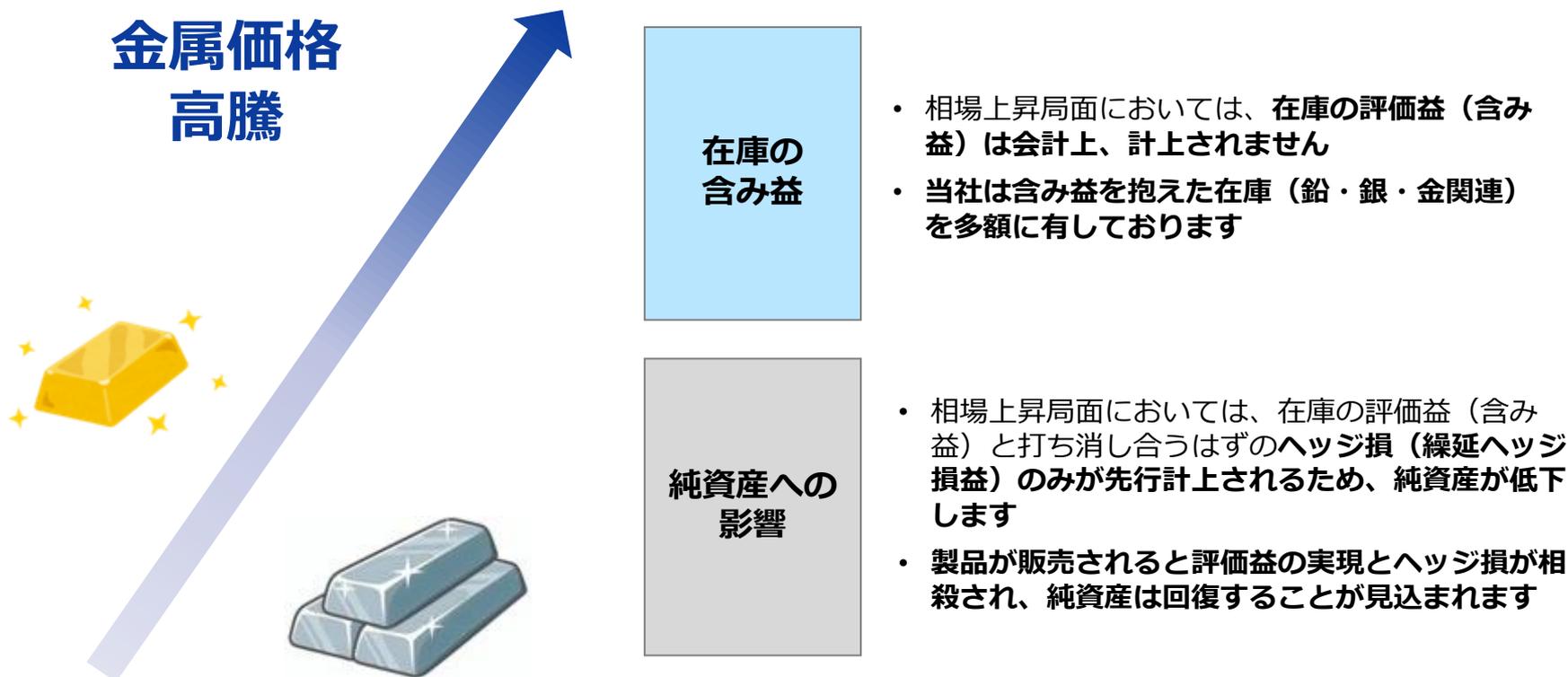
市況・為替について、直近の推移を踏まえて2026年3月期（FY2025）見通しの前提を変更しています。それらの収益に与える感応度は以下の通りです

	FY2025 見通し (2月修正)	FY2025見通し (11月修正)	感応度
鉛相場	2,000 ドル/トン	2,000 ドル/トン	100ドル/トン上昇の場合 経常利益 0.3億円/年増加
銀相場	64 ドル/オンス ¹⁾	42 ドル/オンス	1ドル/オンス上昇の場合 経常利益 0.5億円/年増加
為替	156 円/ドル	150 円/ドル	1円/ドル円安の場合 経常利益 1.1億円/年増加

注1：銀価格の相場設定は2025年12月の平均値で算出

資源価格上昇時のBS（バランスシート）影響

FY2025では銀を中心に貴金属価格が概ね上昇を続けています。これにより当社の在庫の時価は上昇しておりますが、この含み益は会計上は未計上です。一方で先行して繰延ヘッジ損が純資産に影響しますが、製品販売時には評価益の実現と相殺され、純資産は回復することが見込まれます



1. 2026年3月期3Q決算概要	P.3
2. 2026年3月期通期見通しの変更	P.10
3. 2027年3月以降の見通し	P.15
4. その他	P.21
Appendix	

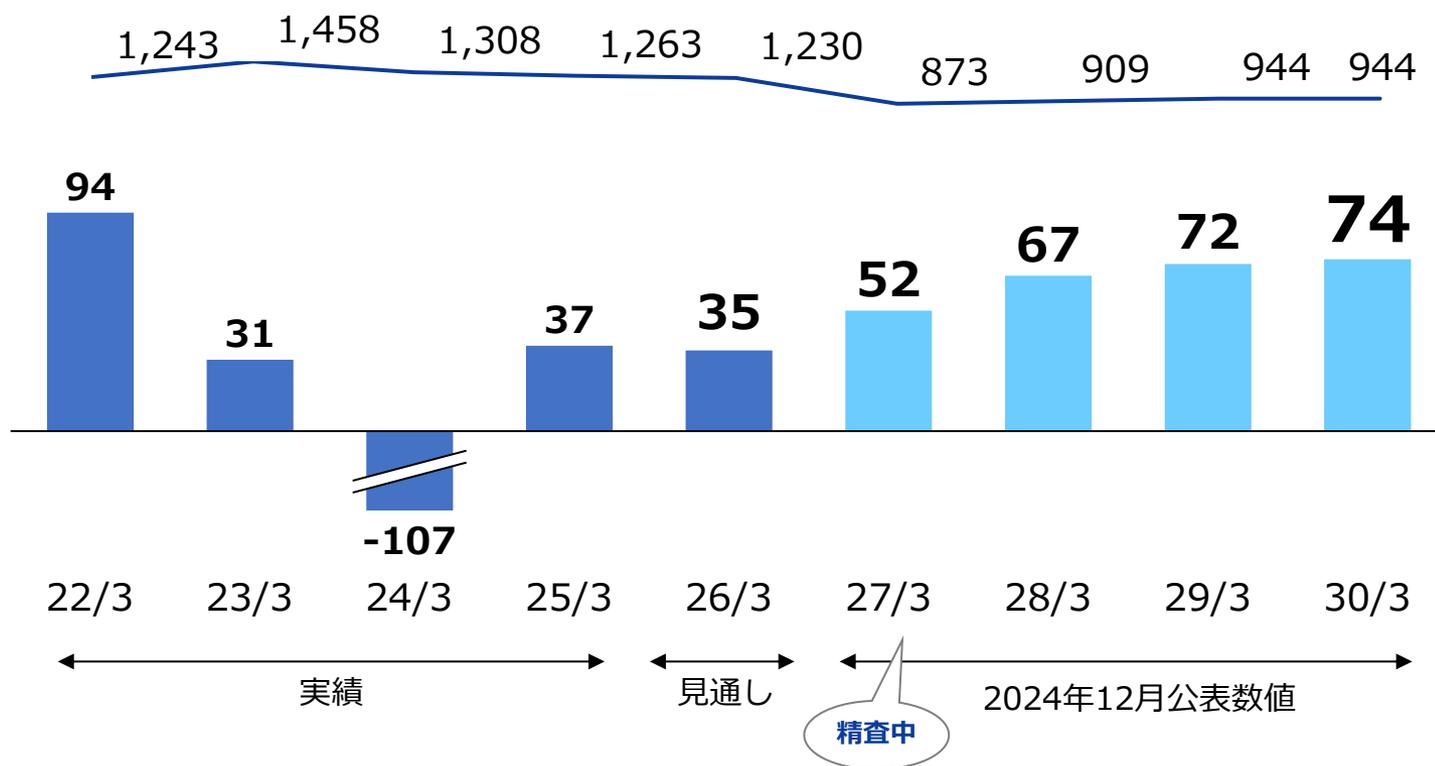
再生計画の数値

為替・資源相場の変動を踏まえた2027年3月期の計画は精査中です。（以下数値は現時点の公表数値）

(億円)

— 売上高
■ 経常利益

計画が**事業再生計画作成時点**のものにより、足元環境変化も大きい
ため**足元より精査中**



31/3期以降は更なる成長へ

今後の変動要因

市況・為替・TC/RCの変動要素、希少金属増産（重要鉱物）を含む事業再生施策の効果発現も見込まれます。ボラティリティも高く、今後の見通しは精査中です

変動要因		短期影響（今後1-2年）	中期影響（事業再生計画）
鉛・銀	市況・為替の変動	～ 足元銀相場については上がるもボラティリティ高く予測困難	～ 同左
	TC/RCの変動	↓ (前期比) 2025年には歴史的低水準となっている	～ 数年単位ではシクリカルであり、中期では影響僅少と想定
	生産量	→ 操業トラブルが回復し安定的な生産量を見込む	↗ これまで過小投資となっていた操業・生産性向上への投資を進める予定
希少金属 (重要鉱物)	希少金属の価格高騰	↗ 希少金属からの収益向上を見込む（足元若干の相場落ち着き）	↗ 価格変動の予測は困難だが希少金属を含む収益のベストミックスを目指す
	希少金属の増産	↗ 増産により更なる収益向上を見込む	↗ 同上
事業再生施策	その他収益向上策	↗ 全社員が一丸となって収益改善に取り組む	↗ 同左

ダイナミックに変化する環境において、銀価格・希少金属価格の高騰などの好機を捉え収益構造を最適化

事業再生計画の全体像

FY2025からの事業再生期間において全社変革に本格的に取り組んでおります。現状は基盤・成長事業の収益成長の取り組みを中心に計画化/効果の早期刈り取りを推進しております



事業再生計画の進捗について（基盤/成長事業） 1/2

鉛は環境変化も大きい中で、収益最大化を実現するための原料構成の最適化を目指す方向性、銀は高銀鉱石の確保も概ね順調、貴金属の生産の維持拡大で安定供給を目指します

事業

事業再生計画の活動方針

足元の進捗状況



製錬

鉛

- 生産効率の改善・生産数量増強
- 使用済鉛バッテリーによるリサイクル率引上げと同処理設備投資による増産（[2028年度]）

- 今年度は上期に操業トラブルで減産、**下期は順調に回復している状況**
- 来年度以降はTC/RCの水準低下の中、鉱石由来の鉛生産よりも、リサイクル原料の比率を高める方針、**原料構成の最適化をしていき収益最大化を目指す**
- また販売先には適切な販売プレミアム水準設定を通じて**価格転嫁**もしていきたい

銀

- 高銀鉱石調達による銀生産維持拡大

- 来年度にむけて、**銀・金・レアメタル含む有望な鉱石の確保は概ね順調**
- 生産を維持拡大しながら、安定供給を目指し収益貢献を見込む**

事業再生計画の進捗について（基盤/成長事業） 2/2

リサイクル事業における新規事業は一部課題あるも現状は精査中、電子部材や機能材料は値上げやマーケットの拡大なども含めて順調に推移しております

事業	事業再生計画の活動方針	足元の進捗状況
 環境 リサイクル	<ul style="list-style-type: none">酸化亜鉛生産効率改善させ生産量拡大(新事業) LIBリサイクル事業の立上げ	<ul style="list-style-type: none">物量や生産性の向上よりも、原料コスト適正化やブランド力の向上を目指す(新事業) 原料調達に課題はあるも、自治体との連携強化、他社とのコンソーシアムにて推進中
 (新)金属 ¹⁾ リサイクル	<ul style="list-style-type: none">(新事業) 環境ダストリサイクル熔融炉設備新設	<ul style="list-style-type: none">(新事業)導入済の小型試験機による試験で技術的な課題はクリア。大規模な設備投資につき継続検討中亜鉛製錬再編においては順調に推進中
 電子部材	<ul style="list-style-type: none">車載・産業機械向け既存製品販売積上協業企業との連携	<ul style="list-style-type: none">販売先への値上げも順調に進み収益改善新たな製品ラインナップの拡充など今後も商品強化
 機能材料	<ul style="list-style-type: none">触媒や電池材料等の新規市場開拓ローグレード電解鉄生産	<ul style="list-style-type: none">グローバルなマーケットでの拡大に向けて大手商社とも取り組みが開始ローグレード開発についてはラボ試験から実機試験へ移行

注1：亜鉛再編の（新）金属リサイクル事業については、現状は再編事業の位置付けであるが、今後成長事業になっていくことも踏まえて上記の進捗に含める

1. 2026年3月期3Q決算概要	P.3
2. 2026年3月期通期見通しの変更	P.10
3. 2027年3月以降の見通し	P.15
4. その他	P.21

Appendix

経営基盤：運転資金について

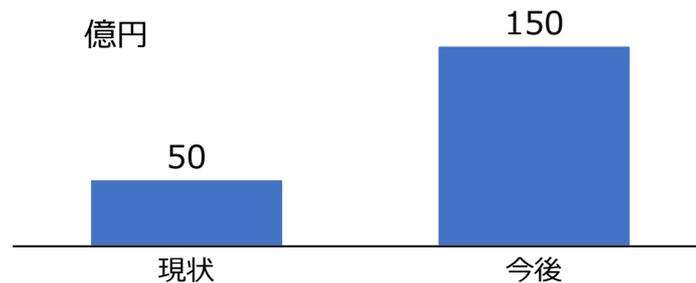
安定的な事業運営に向けた財務基盤強化のため、金融機関との追加借り入れ枠を合意しました

運転資金

- 直近の銀相場高騰により運転資金拡大→新たな資金調達に向けた対応が必要

（一方で、相場が上がることはPL上はプラス効果
※感応度 = 1ドル/オンス上昇の場合、経常利益 0.5億円/年増加）

- 1月30日付けで金融機関と追加借り入れ枠を合意¹⁾



安定的な事業運営に
向けて資金枠を確保

注1：コミットメント契約および当座貸越契約による調達枠

株価（プライム市場維持に向けて）

足元の株価水準に基づくと東証プライム上場維持基準に適合する見込みも、上場維持に向けてあらゆる施策を対応中です

【2025年9月30日時点】 ※2025年11月13日公表数値

	株主数	流通株式数	流通株式時価総額	流通株式比率
当社の状況 (2025年9月30日 時点)	12,439人	123,736単位	80億円	91.1%
上場維持基準	800人以上	20,000単位以上	100億円以上	35%以上
基準達成	○	○	×	○

【2026年2月12日時点】

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{流通株式数} \\ \text{(9月末前提)} \\ \text{123,736単位} \\ \hline \end{array} \times \begin{array}{|c|} \hline \text{2月10日までの} \\ \text{平均株価} \\ \text{1,591円} \\ \hline \end{array} = \begin{array}{|c|} \hline \text{流通} \\ \text{時価総額} \\ \text{197億円} \\ \hline \end{array}$$

※基本は1-3月の平均株価につき判断されるため上記はあくまでも現時点の平均株価における流通時価総額

- | | |
|---------------------|------|
| 1. 2026年3月期3Q決算概要 | P.3 |
| 2. 2026年3月期通期見通しの変更 | P.10 |
| 3. 2027年3月以降の見通し | P.15 |
| 4. その他 | P.21 |

Appendix

四半期別実績推移

		2025/3	2025/3	2025/3	2025/3	2026/3	2026/3	2026/3
		1Q実績	2Q実績	3Q実績	4Q実績	1Q実績	2Q実績	3Q実績
市況								
鉛	US\$/t	2,166.3	2,041.4	2,006.1	1,970.3	1,946.8	1,964.8	1,970.8
銀	US\$/oz	28.9	29.4	31.3	31.9	33.6	39.4	54.8
円/米ドル		155.9	149.4	152.4	152.6	144.6	147.5	154.2
製錬セグメント主要製品生産量								
鉛製品	千t	23.7	21.1	21.7	15.1	19.7	20.6	24.7
電気銀	t	53.0	63.9	62.7	59.5	44.5	64.9	74.8
収支								
売上高	億円	348.9	286.1	337.9	289.7	268.7	269.6	362.7
営業利益	億円	35.4	(1.6)	24.9	(2.5)	(8.5)	1.8	35.9
EBITDA	億円	42.3	5.8	32.4	1.3	(5.1)	5.3	39.3
経常利益	億円	33.1	(5.8)	15.6	(6.1)	(10.8)	(1.0)	32.9
製錬	億円	20.2	(6.7)	18.8	3.4	(4.2)	2.4	19.1
在庫評価損益	億円	6.1	(9.1)	11.8	(0.9)	(6.0)	(0.3)	9.4
その他	億円	14.1	2.4	7.1	4.3	1.8	2.8	9.7
環境・リサイクル	億円	4.6	3.9	3.4	4.8	2.4	1.1	1.0
電子部材・機能材料	億円	1.8	1.5	1.0	0.5	0.7	1.2	0.8
金属リサイクル	億円	8.7	(9.8)	(3.1)	(8.2)	(6.8)	(1.3)	14.0
資源	億円	(0.2)	7.0	0.8	(3.0)	(0.2)	0.2	0.0
その他	億円	0.7	0.3	1.5	2.2	1.3	(0.4)	0.8
調整額	億円	(2.7)	(1.9)	(6.9)	(5.7)	(4.1)	(4.0)	(2.8)
当期純利益/損失	億円	26.2	15.9	(52.3)	(4.4)	(11.1)	(2.4)	30.9

3Q実績・比較

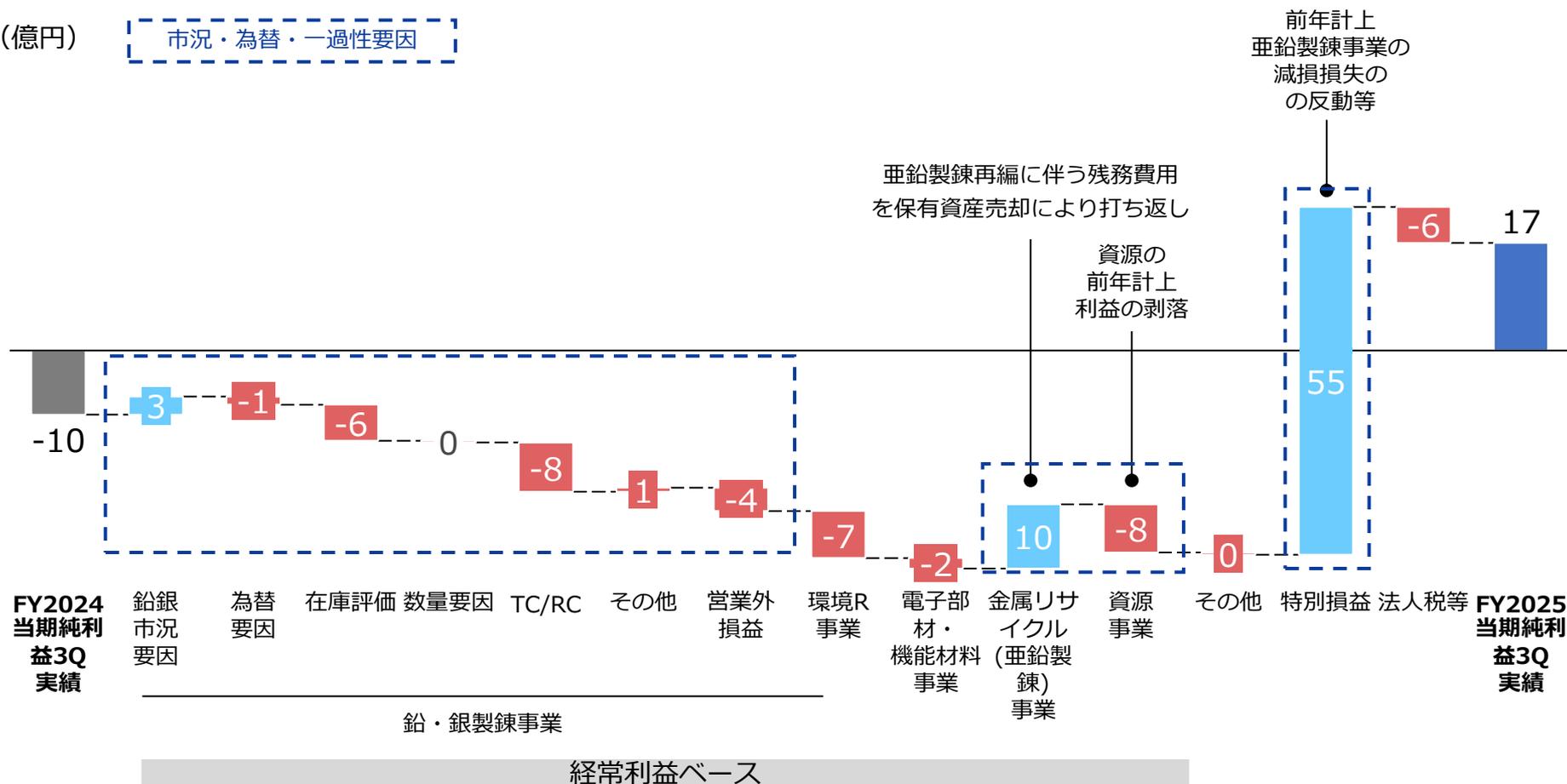
		2025/3 3Q実績	2026/3 3Q実績	差 (実額)	差 (%)
市況					
鉛	US\$/t	2,071.3	1,960.8	(110.5)	(5%)
銀	US\$/oz	29.9	42.6	12.7	43%
円/米ドル		152.6	148.7	(3.8)	(3%)
製錬セグメント主要製品生産量					
鉛製品	千t	66.5	65.0	(1.5)	(2%)
電気銀	t	179.6	184.2	4.5	3%
収支					
売上高	億円	973.0	901.0	(71.9)	
営業利益	億円	58.8	29.1	(29.6)	
EBITDA	億円	80.4	39.5	(41.0)	
経常利益	億円	43.0	21.1	(21.9)	
製錬	億円	32.3	17.3	(15.0)	
在庫評価損益	億円	8.8	3.1	(5.7)	
その他	億円	23.6	14.3	(9.3)	
環境・リサイクル	億円	11.9	4.5	(7.5)	
電子部材・機能材料	億円	4.3	2.7	(1.7)	
金属リサイクル	億円	(4.3)	5.9	10.2	
資源	億円	7.6	0.0	(7.6)	
その他	億円	2.5	1.7	(0.8)	
調整額	億円	(11.5)	(11.0)	0.5	
当期純利益/損失	億円	(10.2)	17.3	27.5	

FY2024/3QからFY2025/3Qの変動要因

前年同期比では、TC/RC条件悪化、資源事業の一過性収益の反動などはあるものの、前年計上の亜鉛製錬事業の減損損失の反動により当期純利益は増加しました

(億円)

市況・為替・一過性要因



東邦亜鉛株式会社の概要

当社は1937年創業、鉛・銀製錬および環境・リサイクル、電子部材・機能材料事業を手掛けるメーカーです

基礎情報

会社名	東邦亜鉛株式会社
代表者	代表取締役社長 伊藤正人
本社	東京都港区虎ノ門3-18-19 UD神谷町ビル
創業	1937年2月27日
主要事業	製錬事業（鉛・銀）、環境・リサイクル事業、電子部材・機能材料事業
資本金	10億円



1966年 日本工業新聞社出版
社史『荒野を拓く 東邦亜鉛』

製造拠点



東邦契島製錬株式会社
「生きた軍艦島」と呼ばれ、島全体が鉛・銀の製錬工場



小名浜製錬所



藤岡事業所



安中製錬所

当社の主要製品

当社は鉛・銀製錬を主力事業とし、電気鉛・電気銀のみならずそれらの合金、副産物である金や希少金属等、産業需要を支える様々な製品を製造・販売しています

	製品	当社/製品の特長	主な用途
鉛・銀製錬	 電気鉛	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鉱石やリサイクル原料から鉛・銀製品を大量生産 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自動車、産業用バッテリー、ケーブル被覆
	 合金鉛		
	 電気銀		
	 粗金	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鉛・銀製錬の副産物として金や希少金属を生産 	<ul style="list-style-type: none"> ・ はんだ、写真感光材、電子工業用材料
	 電気ビスマス		
環境R	 酸化亜鉛	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電炉ダスト（リサイクル原料）から生産 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゴムの加硫促進助剤
機能材料	 電解鉄	<ul style="list-style-type: none"> ・ 超高純度品質を誇り世界シェアトップ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 航空機、自動車、IT、研究材料や特殊合金

当社の事業ポートフォリオ

シェアの高い競争優位性のある領域で稼ぐ事業ポートフォリオを展開しております

金属リサイクル事業
【76億円】

※亜鉛製品(地金)は今年度で販売終了予定

亜鉛加工品・化成品の製造販売

【亜鉛加工品】
炭酸亜鉛 亜鉛粉末



電子部材/機能材料事業
【36億円】

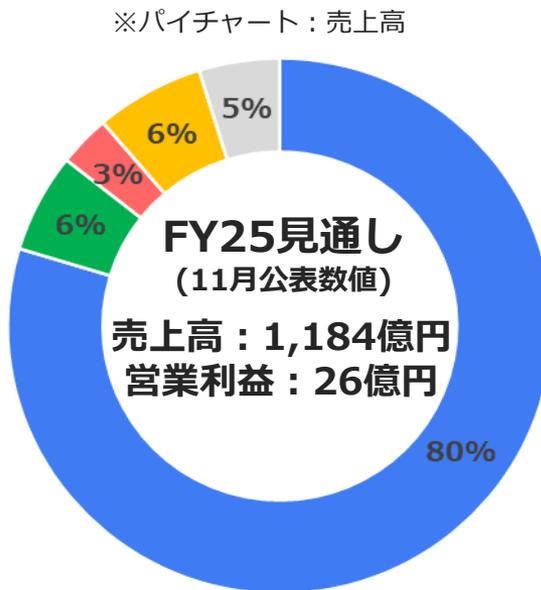
電子部品コイル/電解鉄の製造・販売

世界シェア
No.1



コイル 電解鉄

その他事業



環境・リサイクル事業
【70億円】

電炉ダストからの酸化亜鉛回収・販売

国内シェア
20%

酸化亜鉛

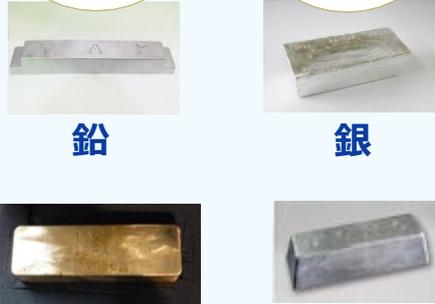


コア事業

製錬事業 (鉛/銀)
【943億円】

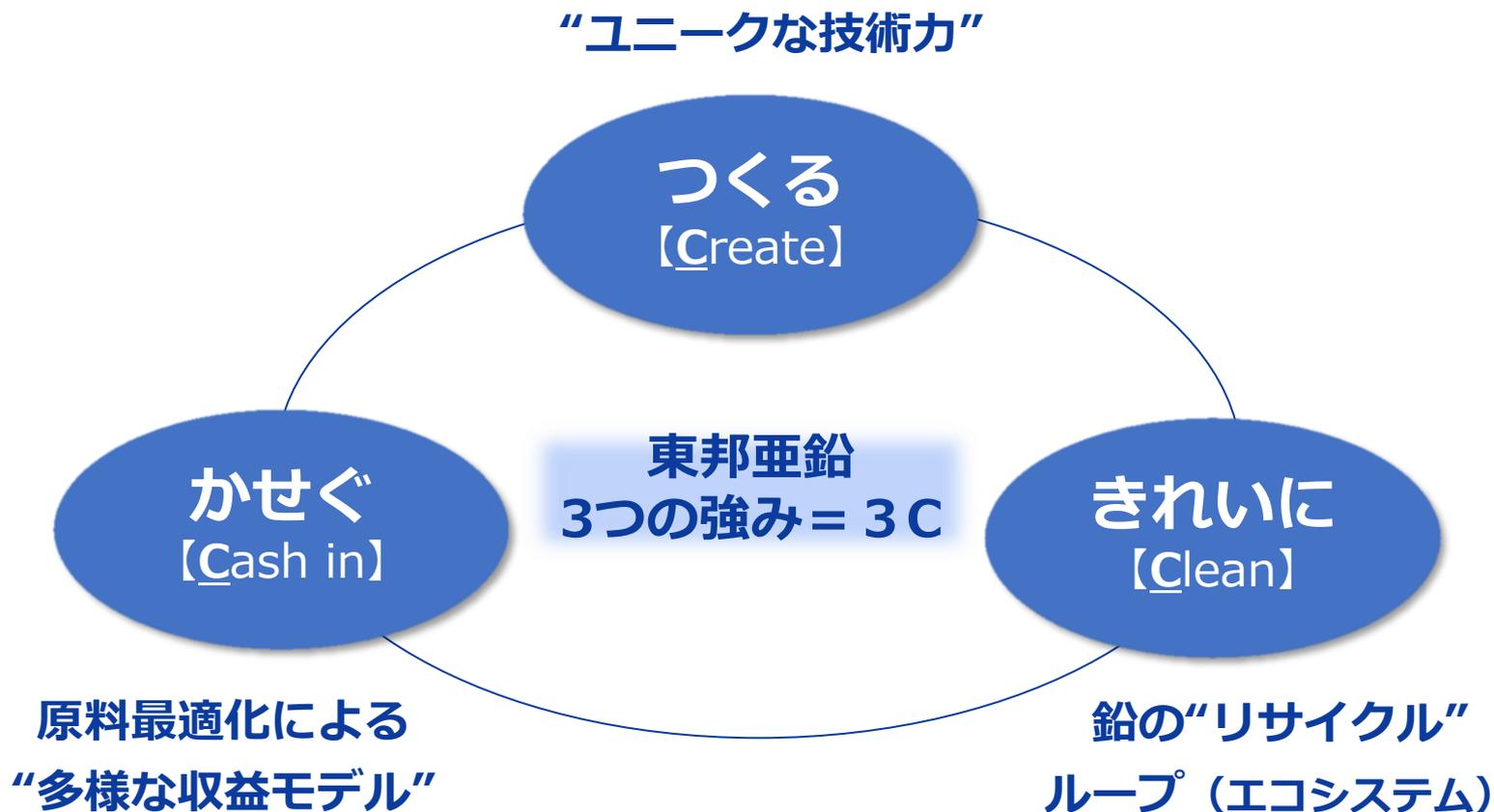
非鉄金属製品の製造・販売

国内シェア	国内シェアクラス	製品
No.1	TOP	鉛
		銀
		粗金
		ビスマス (レアメタル)



東邦亜鉛の3つの強み

製錬（鉛・銀）の国内トップ企業としての東邦亜鉛の強みは以下の3つです



東邦亜鉛の3つの強み（つくる＝ユニークな技術）

それぞれの事業がユニークな技術力で業界をリードしております

鉛/銀



東邦契島製錬株式会社

- 鉱石及び廃バッテリー(リサイクル原料)の両方から製錬可能な技術力
- 国内の鉛製錬工場の中で、トップクラスの規模で生産能力も高い

酸化亜鉛



小名浜製錬所

- 電炉ダストを主原料として世界唯一の技術を駆使
- タイヤメーカーのニーズに合った針状タイプの高品質な製品

電解鉄



藤岡事業所

- 独自製法でつくる高純度（99.95%）の製品製造
- 高純度の中でもグレード別の製造、用途に合わせた製品ラインナップの充実

東邦亜鉛の3つの強み（かせぐ = 多様な収益モデル）

原料のベストミックスや副産物含む多様な収益でかせぐモデルを展開しております

原料



製品

1次原料

鉱石



2次原料
(リサイクル)

廃バッテリー



A 市況/購買条件によつて、最適な原料配合で収益向上
廃バッテリーは鉱石より低原価で高収益なモデル



B 鉱石由来の精製により銀・金・レアメタル生産が可能。多様な収益元

東邦亜鉛の3つの強み（きれいに＝鉛のリサイクルループ）

グループ会社やバッテリーメーカーとともにリサイクルループのモデルの循環に貢献しております



グループ会社

東邦契島製錬

×

当社

東邦亜鉛
(営業部門)

製錬

鉛製品



供給



鉛スクラップ



鉛
リサイクルループ

鉛バッテリー



解体

廃バッテリー



回収

グループ会社

東邦キャリア
(東日本)

×

グループ会社

契島運輸
(西日本)



解体ライン



船舶「とうほう」

事業再生に至る背景

事業体質の弱かった亜鉛製錬事業及び資源事業における損失を背景に財務体質が大きく悪化しました。2025年3月期中に資金調達及び業務提携を行い、事業再生を開始しました

業績及び財務体質の悪化

(2024年3月期実績)



構造的に高コストであり市況変動の影響を受け易い亜鉛製錬事業及び資源事業の収益が悪化し、損失を計上

継続企業の前提に関して重要な疑義を生じる状況に

資金調達及び業務提携

(支援企業一覧)



2024年12月アドバンテッジパートナーズがサービスを提供するファンド及び辰巳商会からの出資と阪和興業との業務提携を発表

3社の支援のもと事業再生に取り組む計画を開示

事業再生への取り組み

基盤・成長事業

銀・鉛製錬事業
環境リサイクル事業等

再編・撤退事業

亜鉛製錬事業(再編)
資源事業(撤退)等

2025年からの5年間で事業再生期間と位置づけ

不採算事業の撤退・再編と、基盤・成長事業の強化を通じ、経営基盤の再構築を行う

デジタル業務改革構想（DX戦略）についての進捗

デジタル業務改革構想として2025年の1月にHPにて発信。今後はロードマップに沿って変革を実行してまいります

成長投資の位置付け

- ・ DX戦略の投資は、第三者割当増資において成長投資としての位置付け

デジタル組織体制

- ・ CEO直下にデジタル推進組織を設置し、2025/8月よりCDO/CIOを新たに採用
- ・ 各部門・拠点にDX推進役を配置し、デジタル推進を加速
- ・ 全社員が日々の業務の中でデジタル活用をしていくことでの意識改革

- ・ 3つのテーマをフェーズごとにロードマップ化/今後変革を実行

目指す姿 ロードマップ



